

# まちづくり委員会資料

## 請願・陳情の審査

### 請願第11号

令和元年台風19号に依る浸水被害の原因究明と賠償、  
再発防止を求める請願（第4項）

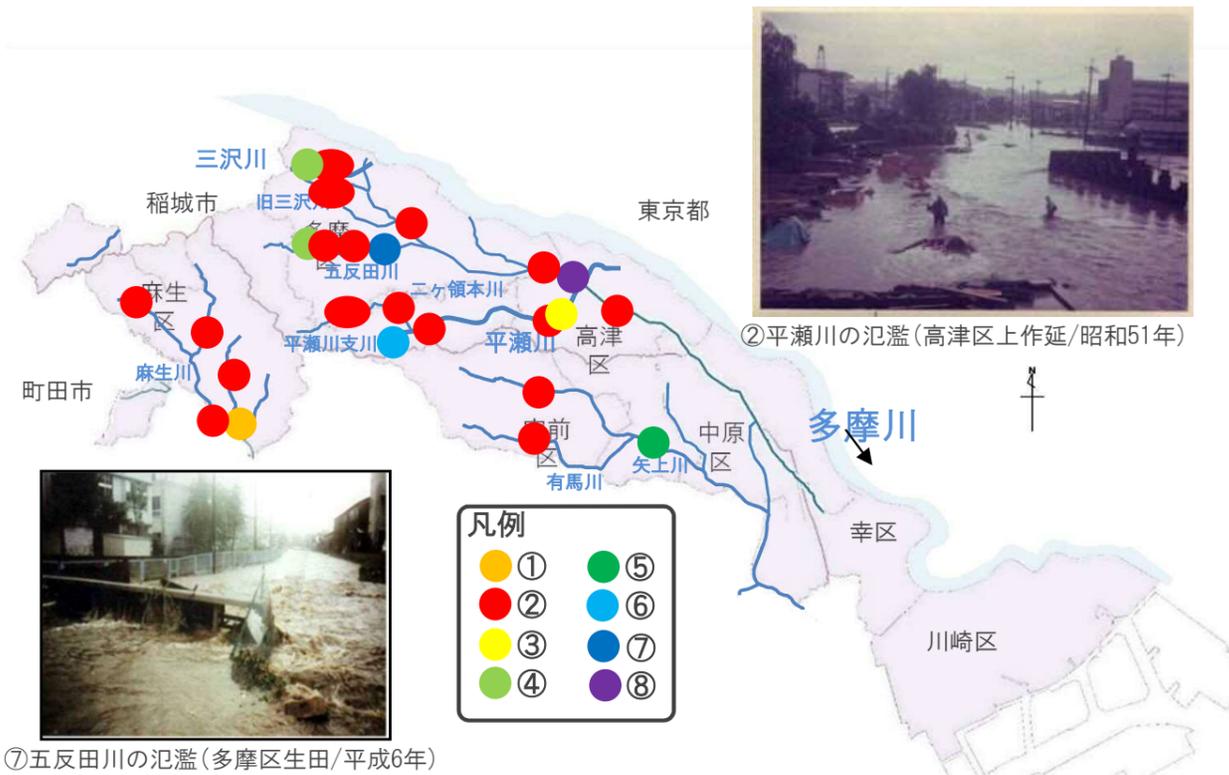
### 陳情第46号

三沢川に流入する用水路の安全対策を  
直ちに行うことを求める陳情

建設緑政局



## 2 これまでの河川に関する浸水被害の発生状況



番号	年月日	要因	状況
①	S49.6.9	雷雨	真福寺川溢水(麻生区下麻生)
②	S51.9.9	集中豪雨(台風17号)	二ヶ領本川(高津区久地)溢水300m 平瀬川(高津区下作延～高津区上作延)溢水500m 平瀬川(宮前区平～宮前区菅生)溢水2,300m 平瀬川支川(宮前区菅生)溢水1,000m 三沢川(多摩区菅)溢水1,200m 鶴見川(谷本川)(麻生区下麻生)溢水800m 二ヶ領本川(多摩区生田～多摩区登戸)溢水800m 五反田川(多摩区生田)溢水800m、同900m 平瀬川支川(多摩区生田)溢水2,000m 二ヶ領用水(円筒分水下流)(高津区溝口)溢水600m 矢上川(宮前区馬絹)溢水350m 有馬川(宮前区有馬)溢水50m 旧三沢川(多摩区菅)溢水1,200m 麻生川(麻生区古沢～片平)溢水200m 片平川(麻生区栗木)溢水800m、同900m 真福寺川(麻生区王禅寺～下麻生)溢水1,200m
③	S53.4.6	集中豪雨	平瀬川(高津区下作延)溢水
④	S57.7.31	台風10号	三沢川55m、五反田川40mともに溢水
⑤	S57.9.11	台風18号	矢上川(高津区五反田橋付近)溢水
⑥	H3.9.18	台風18号	平瀬川(宮前区菅生4丁目)溢水
⑦	H6.7.12	集中豪雨	五反田川(多摩区枅方)東生田小学校付近溢水
⑧	H22.12.3	集中豪雨	二ヶ領本川(高津区久地1丁目)円筒分水付近溢水

「川崎市の災害概要」などから抜粋

## 3 現在の取組

流域の都市化に伴う雨水流出量の増大により、早急な整備が必要となったことから、国・県の補助制度等を活用して河川改修を進めて、治水安全度の向上を図っている。

また、供用から40年以上経過する施設が多く、老朽化が見られることから、河川維持管理計画に基づき、計画的な維持補修を行うとともに、近年の降雨状況や土地利用の変化に伴う水害リスクの増大に対応するため、ハザードマップの周知などソフト対策の推進による減災にも取り組んでいる。

### (1) 五反田川放水路の整備

五反田川の下流部及び二ヶ領本川との合流部では度重なる水害が発生しており、平瀬川と二ヶ領本川の計画高水流量の負担軽減を目的として、洪水時に五反田川の全洪水量を地下トンネルに流入させ、直接多摩川へ放流する地下河川として、令和5年度の供用開始に向け施工を行っている。

近年の豪雨災害の発生状況を踏まえ、事業効果の早期発現を目的に、五反田川の水位が上昇した際に、施設内に洪水を取り込み、一時的に貯留する暫定運用を令和2年6月から開始する。

### (2) 平瀬川支川の整備

流域の市街化により、治水安全度の向上を図るため、時間雨量50ミリに向けて、住民参加による多自然型川づくりを目指すなど親水性に配慮した河川整備を進めている。

### (3) 平瀬川護岸の改修

改修後概ね40年を過ぎて施設の老朽化が顕著となっており、東海地震の発生等の切迫性が指摘されていることを踏まえ、変状が確認された既設護岸について、耐震性などの機能向上を図る改築工事を進めている。

### (4) 河川詳細点検の実施

平成29年度に策定した「河川維持管理計画／土木構造物編」に基づき、適切な河川管理の実施による治水・利水・環境の河川機能の維持を目的に、定期的な点検の実施により施設の状態を把握し、計画的な補修を行うなどの予防保全による維持管理を行っている。

今後、「機械・電気通信設備編」(水門や堰など)の策定を予定しており、機能不全に陥った場合に影響が大きい施設の総点検を実施し、長寿命化計画の策定を行い、計画的な維持管理を行っている。

### (5) ハザードマップ等の活用

多摩川水系、鶴見川水系の河川が氾濫した場合に、浸水が想定される範囲や深さを示した洪水浸水想定区域図(ハザードマップ)のより一層の周知と活用を図る。また、重要水防箇所の共同点検を実施し住民に周知している。

## 4 令和元年東日本台風による各地域の浸水状況と対策概要

これまでの取組を実施していくことに加え、令和元年東日本台風により、市内3地域において浸水被害が発生したことから、これらの地域における対策について取り組んでいる。

### (1) 河港水門（川崎区港町周辺）



#### ア 浸水状況

昭和3年に完成した河港水門については、周辺の堤防天端高より約1.3メートル低い状況となっていた。これについては、水門背後地への船舶の利用が続く中、ゲートの嵩上げ等を行うことで船舶利用への支障が出る恐れがあったこと、水門ゲートの高さが多摩川の計画高水位を満たすこと等から、現在までゲート改築を行っていなかった。

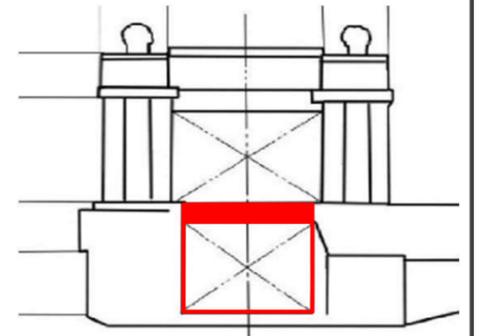
多摩川上流域で観測した既往最高の雨量は、計画高水位を超過したまま多摩川下流域を流下し、河港水門付近においても計画高水位を越える状況の中、河港水門扉体上部からの越水、周辺工場の多摩川取水口からの出水が確認され、約7ヘクタールの浸水被害が発生した。

また、警察、消防からの連絡を受けるまで、浸水被害を把握することができず、浸水する前に住民への注意喚起や情報提供が遅れる等の課題が生じた。

#### イ 対策概要

浸水経路として確認された河港水門扉体ゲートの高さを確保する対策等を行うとともに、周辺工場に対し多摩川取水口の止水対策を働きかける。

また、浸水状況の把握については、住民への注意喚起や情報提供が遅れてしまったことから、リアルタイムに水位等の情報を把握できるよう、水位計やカメラを設置するとともに、住民に自主防災意識を促すソフト面での対策も併せて行う。



河港水門嵩上げイメージ

### (2) 平瀬川（多摩川合流部周辺）



#### ア 浸水状況

多摩川上流域で観測した既往最高の雨量は、計画高水位を超過したまま多摩川下流域を流下した。一方、平瀬川流域の雨量は流下能力を下回る降雨であったが、多摩川において田園調布(上)水位観測所等で計画高水位を越える状況の中、平瀬川においても水位が上昇し、管理用通路水抜き穴からの浸水、東久地橋桁下からの浸水、平瀬川の堤防からの越水が確認され、約6ヘクタールの浸水被害が発生した。

また、水位計の電源が喪失し、水位の情報が欠測したり、夜間のカメラ映像が不鮮明で現地状況の把握に支障が出る等、情報収集・伝達の面で課題が生じた。

#### イ 対策概要

浸水経路として確認された管理用通路水抜き穴へのフラップゲートの設置やパラペット護岸の改良等を行うとともに、水位の欠測等に対して夜間対応カメラや補助電源を有する機器への更新等を実施するとともに、住民に自主防災意識を促すソフト面での対策も併せて行う。



アクリル板（設置事例）

### (3) 三沢川（JR南武線三沢川橋梁周辺）



#### ア 浸水状況

多摩川上流域で観測した既往最高の雨量は、計画高水位を超過したまま多摩川下流域を流下するとともに、大丸用水の上流域に位置する多摩雨量観測所(稲城市大丸)でも既往最高の雨量を観測した。一方、三沢川流域の雨量は流下能力を下回る降雨強度であったが、多摩川において計画高水位を越える状況の中、三沢川においても水位が上昇し、三沢川に接続する水路の水が流入しづらくなったため水路からの越水が発生し、併せて三沢川護岸に設置されているアクリル板の目地からの漏水や、管理用通路の水抜き穴からの浸水も発生した。当該地域では約12ヘクタールの浸水被害が発生した。

また、早期に浸水状況の把握ができず住民への注意喚起が出来なかったことや、三沢川水門の閉鎖や付近の三沢川の水位情報が住民に伝えられていない等、情報収集・伝達での課題が生じた。

#### イ 対策概要

浸水経路として確認された水路（水門）の補修や、フラップゲートの設置及び三沢川のアクリル板の目地の補修を行う。

また、浸水状況の把握については、住民への注意喚起や情報提供が出来なかったことから、リアルタイムに水位等の情報を把握できるよう、水位計やカメラを設置するとともに、住民に自主防災意識を促すソフト面での対策も併せて行う。



大丸用水接続部の水門

## 5 多摩川緊急治水対策プロジェクト

令和元年東日本台風により甚大な被害が発生した多摩川流域における今後の治水対策の方向性として、国、都、県、市が連携し、「多摩川緊急治水対策プロジェクト」として次の取組を実施していくことで、「社会経済被害の最小化」を目指している。

### （1）被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】

- ・河道掘削、樹木伐採、堰改築、堤防整備 等

### （2）地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】

- ・流出抑制施設の整備等
- ・既存施設（五反田川放水路（建設中））の活用による雨水貯留
- ・下水道樋管のゲート自動化・遠隔操作化等
- ・移動式排水設備（排水ポンプ車等）の整備
- ・土のう等の備蓄資材の配備等

### （3）減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

- ・簡易型河川監視カメラの設置
- ・多機関連携型タイムラインの策定、運用
- ・講習会等によるマイ・タイムラインの普及促進
- ・自治体職員対象の排水ポンプ車運転講習会の実施 等

## 6 請願に対する本市の考え方

### （請願要旨）

市内全ての洪水危険地域を総点検して洗い出し、豪雨への抜本的対策を速やかに講じること

●市内の一級河川を含む河川における治水対策については、時間雨量50mmの降雨に対応できる河川改修を進めるとともに、総合的な治水対策・浸水対策として、五反田川放水路などの河川整備のほか雨水流出抑制施設の設置指導など、災害に備えた川づくりの取組を継続し、水害の最小化に努めていく。

●令和元年東日本台風により、市内3地域において河川関係の浸水被害が発生したことから、これらの地域において、台風時期までに行う短期対策や、中期及び長期対策について、早期に取り組んでいく。

●多摩川流域における治水対策については、令和元年東日本台風により甚大な被害が発生したことから、本市で実施する対策とともに、多摩川緊急治水対策プロジェクトにおける対策においても、国や多摩川流域の自治体と連携し、多摩川の治水安全度の向上に取り組んでいく。



（国土交通省ホームページから抜粋）

# 陳情第46号 三沢川に流入する用水路の安全対策を直ちに行うことを求める陳情

## 1 浸水状況の検証概要

10月11日(金)から令和元年東日本台風の接近に伴い広範囲に強い雨域がかかり、山梨県、東京都、神奈川県を中心に大雨となった。多摩川上流域で観測した既往最高の雨量は、計画高水位を超過したまま多摩川下流域を流下するとともに、大丸用水の上流域に位置する多摩雨量観測所(稲城市大丸)でも既往最高の雨量を観測した。

三沢川流域における雨量は、流下能力を下回る降雨強度であったが、多摩川において計画高水位を越える状況の中、三沢川においても水位が上昇し、以下の経路での浸水(約12ha)が発生した。

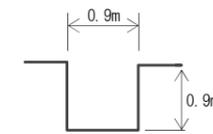
- ①水路からの越水
- ②管理用通路水抜き穴からの浸水
- ③三沢川のアクリル板の目地からの漏水



## 3 水路の状況

### 水路①

水路寸法



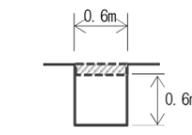
対岸(右岸)から



三沢川吐き口部手前

### 水路②

水路寸法



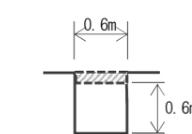
対岸(右岸)から



三沢川吐き口部手前

### 水路③

水路寸法



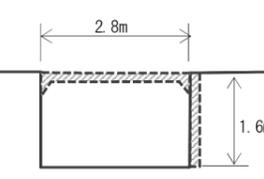
対岸(右岸)から



三沢川吐き口部手前

### 水路④(大丸用水)

水路寸法



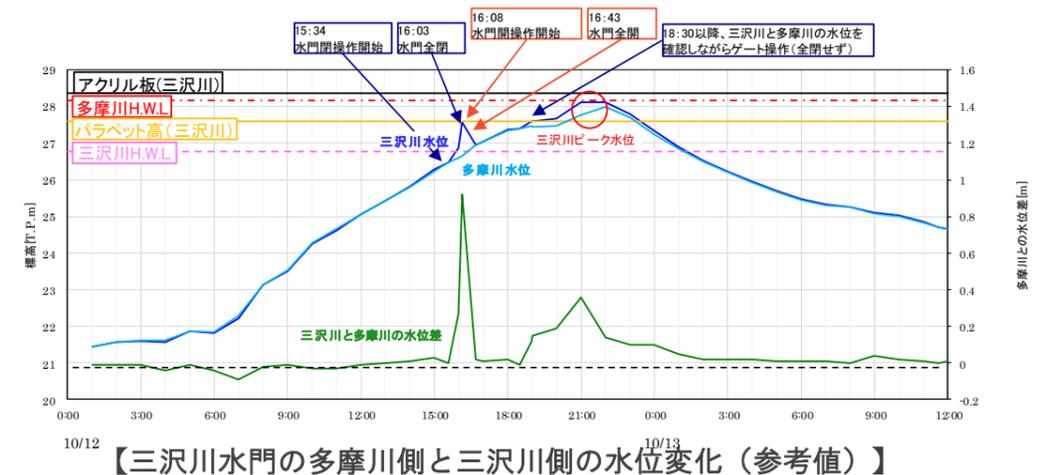
対岸(右岸)から



三沢川吐き口部手前

## 2 三沢川水門について

- ・管 理 者：国土交通省
- ・役 割：多摩川から三沢川への逆流防止
- ・水 門 操 作 判 断：開閉操作の判断は、多摩川から三沢川への洪水が逆流の兆候を水位計の値により覚知して操作を行う。
- ・台風時の操作状況：10/12 15:34に逆流を覚知して閉操作を実施、16:08に逆流の解消に伴い開操作を開始。その後、18:30より同様に水位の変化を確認しながら水門の開閉操作を行い多摩川から三沢川への逆流を防止した。また、三沢川のピーク水位と護岸の高さ関係を確認したところ、アクリル板上部の高さ以下であったので、三沢川護岸からの越水は発生していなかったと考えられる。このことから、三沢川水門の操作は、三沢川のアクリル板上部からの越水を防止しつつ、多摩川から三沢川への逆流を防いでいたと考えられる。



# 陳情第46号 三沢川に流入する用水路の安全対策を直ちに行うことを求める陳情

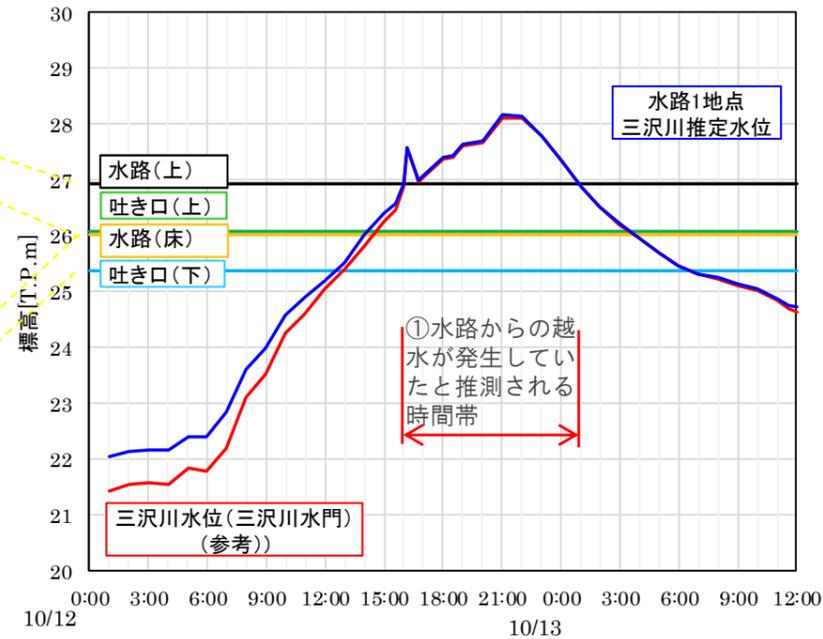
## 4 水路の高さ測量結果や水位データによる検証

三沢川の各水路地点水位は、15:00過ぎから2:00の間、水路1, 2, 3, 4の上部を越える水位であったことが推測される。浸水地域は広域な水路網における降雨と水量、三沢川及び、多摩川の水位変動等、複数の要因が同時かつ複雑に働く場所であり、河川分野等の学識経験者である第三者から「令和元年東日本台風における当時の浸水状況について、浸水シミュレーション等を用いた精度の高い再現を実施するためには、内水だけではなく外水による要因も大きいことから、水路のほか三沢川や多摩川等の広域な河川をモデル化し、水門等の施設運転状況や水位等の複雑かつ複数の境界条件を設定する必要がある。このため、浸水状況をシミュレーション等で現況を精度よく再現することは非常に困難、もしくは不可能である。」と提言されております。しかし、三沢川の水位が水路の高さより上昇しており、一時的に水路への逆流が発生していた可能性も否定できない。(水路1の吐き口部は、フラップゲートが設置されているが鎖により開口されていた。また、水路4についても水門が開いている状態であった。)

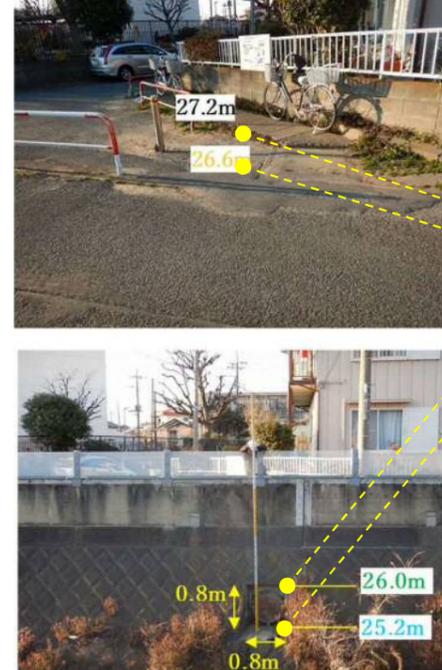
### 水路①・・・フラップゲート有(鎖により開口状態)



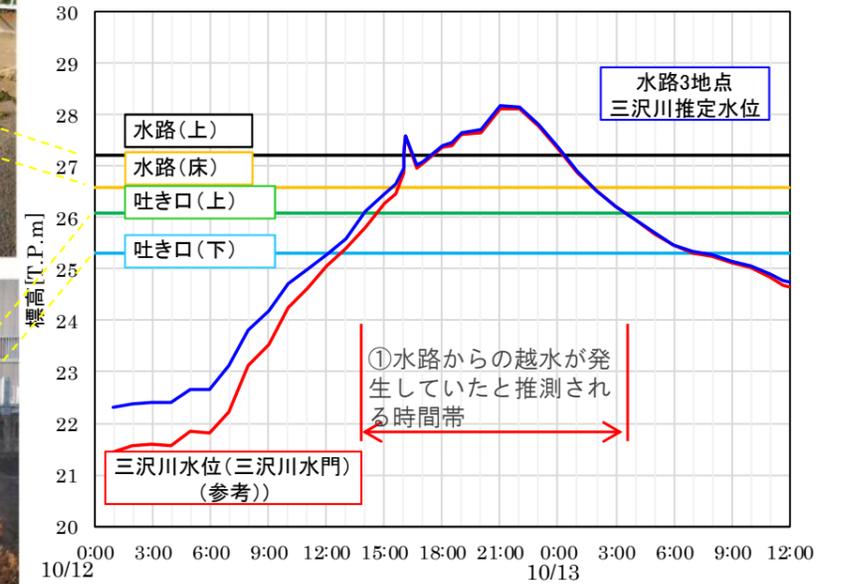
【吐き口部状況写真】



### 水路③・・・フラップゲート有



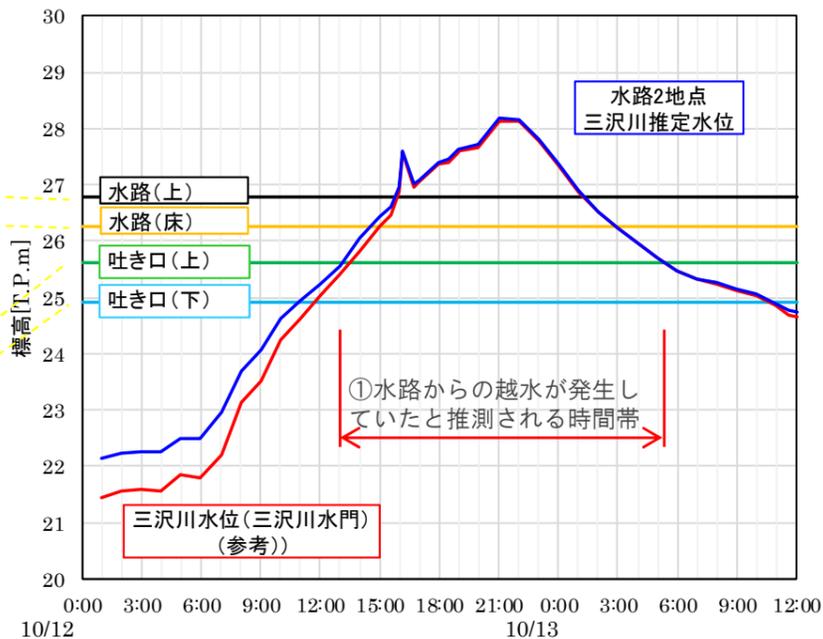
【吐き口部状況写真】



### 水路②・・・フラップゲート有



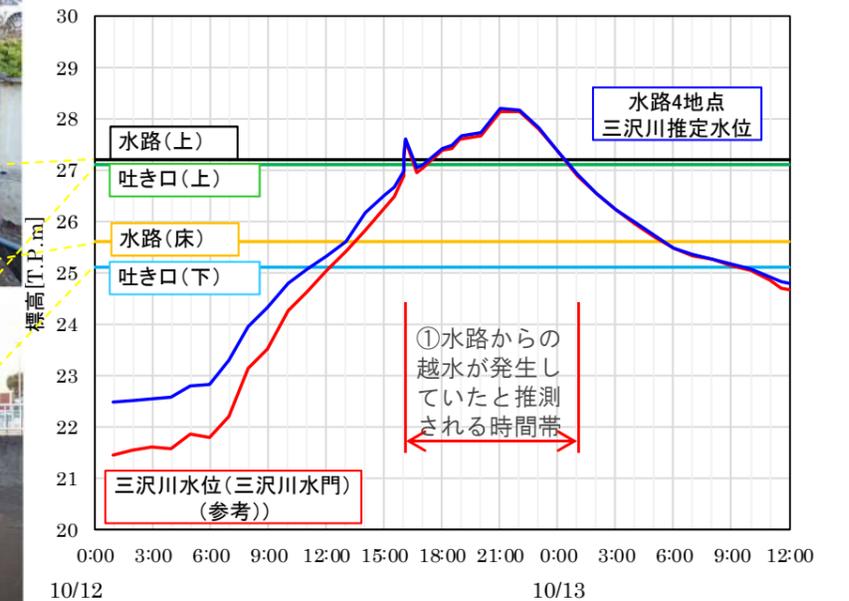
【吐き口部状況写真】



### 水路④(大丸用水)・・・水門有(開口状態)



【吐き口部状況写真】



# 陳情第46号 三沢川に流入する用水路の安全対策を直ちに行うことを求める陳情

## 5 短期対策

### (1) 水路（水門）の補修や管理等

- ・対策実施者：川崎市、神奈川県
- ・実施目途：令和2年度台風シーズン前までに対策

#### 【短期対策内容】

- ・大丸用水の水門機能の回復完了まで、暫定的に仮設止水板等により三沢川からの逆流を防止する。
- ・大丸用水の水門の機能回復への対応については、維持管理については市が、現状の機能回復工事については県が行うことで協議が完了。
- ・水路の浚渫、清掃を実施する。
- ・水路の流下能力向上工事を実施する。
- ・稲田公園取水ポンプの改造を行い、大雨時には確実に取水を停止する。
- ・パトロール体制を強化する。
- パトロール経路への追加とパトロールの強化



大丸用水接続部の水門

### (2) フラップゲートの設置

- ・対策実施者：神奈川県
- ・実施目途：設置済

#### 【短期対策内容】

- ・フラップゲートが欠損した4箇所について設置済。（神奈川県）



フラップゲート

### (3) 三沢川の護岸補修

- ・対策実施者：神奈川県
- ・実施目途：応急措置済み令和2年度中

#### 【短期対策内容】

- ・アクリル板の目地応急措置済。引き続きアクリル板の目地補修等工事を実施。（神奈川県）



アクリル板の補修

### (4) 水位計、カメラの設置

- ・対策実施者：神奈川県、川崎市
- ・実施目途：設置済（神奈川県）  
実施中（川崎市）

#### 【短期対策内容】

- ・危機管理型水位計や簡易型河川監視カメラを設置済。（神奈川県対応）
- ・水位計の情報、カメラの画像は一般に公開する。
- ・水路へカメラ、水位計の設置を行う。



カメラ・水位計のイメージ



水位計、カメラの設置平面図

### (5) 被害最小化の取組

- ・対策実施者：川崎市
- ・実施目途：令和2年度台風シーズン前までに対策

#### 【短期対策内容】

- ・内水処理を目的とした移動式ポンプを導入する。
- ・土のうステーションについては、地元の意向を踏まえ、効果的な設置箇所を選定する。
- 土のうの供給方法等について工夫を行う。



移動式ポンプ機（設置事例）



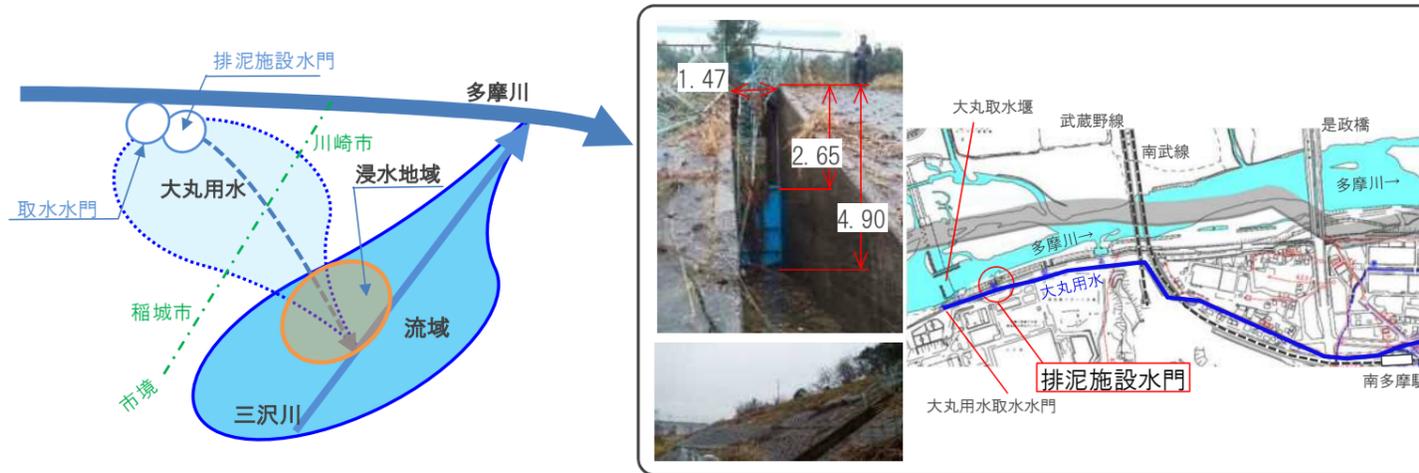
土のうステーション（設置事例）

# 陳情第46号 三沢川に流入する用水路の安全対策を直ちに行うことを求める陳情

## 6 中期対策

当該地域は、三沢川と水路（大丸用水等）の流末地点に位置している。更に三沢川と多摩川の合流点部分でもあり、多摩川の水位上昇の影響を受け浸水被害を発生させたと考えられる。また、大丸用水は、稲城市の大丸取水堰から取水をしている。台風当日は、取水水門の閉鎖はされていた。しかしながら、下流側の排泥施設水門は、扉体高さが低く多摩川の水が流入していたものの、稲城市内の用水路では異常な水位の上昇は見られなかったものと伺っているが、浸水地域に影響していたことも考えられる。このため、現在、今後の対応について稲城市など関係者と協議を行っている。

中長期対策の基本的な方向性としては、浸水地域の雨水処理負担を軽減させることを第一とする。



【浸水地域の雨水処理イメージ】

【大丸用水排泥施設水門の状況】

当該地区の浸水被害を低減するため、以下の2つの対策を検討していく。検討にあたっては、稲城市と連携して調査や対策の実施方法について調整をしていく。

### ①水路網調査

当該地域に集中する雨水の流入経路を水路網の調査をすることにより明らかにする。調査にあたっては、隣接する稲城市と協力して取り組む。

### ②内水対策検討

水路網調査結果を踏まえて、以下の内容について検討を実施する。

- ・流入量の削減  
→水路網の見直しにより必要に応じて水路等の流量の削減を図る。
- ・流下能力、排水能力の向上  
→下水道の改修と連携して、雨水処理能力の向上を検討する。  
→内水処理を迅速に行うため、常設のポンプ施設や排水ポンプ車の導入等を検討する。
- ・稲城市等に対する要望  
→稲城市に対し、下水道（雨水管）の早期整備と下流域への負担低減を要望する。  
→大丸用水排泥施設水門の施設管理者に対し、多摩川からの流入を防止するための改良を要望する。

## 7 対策とスケジュール

検証により明らかになった課題に対して、以下の予定で対策を実施する。

対策	対策時期	対策内容	対策実施者	令和2年度												令和3年度	
				3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3
ア. 水路（水門）の補修や管理等	短期	水路浚渫、清掃、流下能力向上等、取水ポンプの改造	川崎市														
	中期	大丸水門の補修工事	神奈川県														
イ. フラップゲートの設置	短期	フラップゲートの設置工事	神奈川県														
ウ. 三沢川の護岸補修	短期	アクリル板の目地応急措置	神奈川県														
	中期	アクリル板の目地補修等工事	神奈川県														
エ. 水位計、カメラの設置	短期	大丸水門付近に水位計・カメラ設置工事	神奈川県														
	短期	水路に水位計・カメラの設置	川崎市														
オ. 被害最小化	短期	移動式ポンプ機の手配	川崎市														
	短期	土のうステーションの設置	川崎市														
カ. ソフト対策	短期	タイムライン（防災行動計画）の確立と防災意識向上の取組	川崎市														
	中長期	地域防災力向上検討	川崎市														
キ. 中長期対策	中長期	水路網調査・内水対策検討	川崎市														

# 陳情第46号 三沢川に流入する用水路の安全対策を直ちに行うことを求める陳情

## 8 陳情に対する本市の考え方

### 陳情要旨1

用水路氾濫の原因を明らかにし、その責任の所在を明確にすること。

●浸水被害については、多摩川上流で過去最高の雨量を観測した豪雨により、石原水位観測所などで計画高水位を超える既往最高水位を記録する程の自然災害に見舞われたことに起因するものと考えている。

●このような状況の中、三沢川においても水位が上昇し、三沢川に接続している用水路等の水が流入しづらくなったため、水が溢れたものと考えられる。

### 陳情要旨2

同じ原因で水害が起こらないよう、適確な対策を講じること。とりわけ、用水路に三沢川から逆流しないような施設を今年の早い時期に完備すること。被害地域の大・小用水路の整備もすること。

●短期対策として、大丸水門の機能回復が神奈川県により行われるまでの間、暫定的に仮設止水板等を設置するとともに、水路の流下能力向上工事や、移動式ポンプの配備、土のうステーションの設置などを実施していく。

●中期対策として、当該地区の浸水被害を低減するため、水路網調査及び内水対策検討を実施していく。検討に当たっては、稲城市と連携して調査や対策の実施方法について調整を行っていく。

### 陳情要旨3

国と県に対し、多摩川、三沢川の水位を低減する対策を直ちに行わせるよう意見書を提出すること。

●多摩川の河道掘削等については、流下能力を向上させる取組であり、水位を低下させる方策として重要性が高いものと認識していることから、令和2年2月に国土交通大臣宛てに要望書を提出したところであり、令和2年5月から、三沢川と多摩川の合流部である多摩川の堆積土砂の撤去が行われている。今後も引き続き、国や多摩川流域の自治体と連携し、多摩川の治水安全度の向上に取り組んでいく。

●三沢川については、令和2年2月に河川管理者である神奈川県に堆積土砂の撤去について要望を行い、令和2年7月ごろ、JR南武線三沢川橋りょう付近の堆積土砂の撤去が行われる。今後も引き続き、神奈川県と連携した治水対策について、取り組んでいく。